

「道庁・ロールモデル・女子。」

～道職員活躍事例集(女性編②)～

【今回のテーマ】

私たち、地域で頑張ってます。



北海道総務部人事局人事課

VOL. 2

はじめに

この活躍事例集は、各所属のご協力により、道職員のロールモデル（お手本）をご推薦いただき、インタビューやメッセージなどを取りまとめたものです。

第1弾では、女性職員に焦点を当てご紹介することとし、第1回目では、仕事と子育てを頑張っておられるロールモデルの皆さんをご紹介したところですが、第2回目では、地域で活躍するロールモデル女性職員の皆さんをご紹介します。

女性職員をはじめ、男性職員も含めた職員の皆さんには、職種や専門分野に関わらず、ロールモデル女性職員の皆さんに共通する意識や行動などを今後の参考にしていただきたいと考えています。

また、ロールモデルの皆さんの仕事の内容も紹介しておりますので、これから北海道職員を目指す女性の方々にとって、道職員の魅力について、さらに一層の理解を深めていただけることを願っています。

平成27年1月13日

北海道総務部人事局人事課

目次

- 経済部観光振興監【行政】
神 姿子（長男31歳、次男29歳） …… 3
管理職としての経験、部下の育成、女性登用について
- 上川総合振興局長【行政】
紺谷 ゆみ子 …… 7
管理職としての経験、昇任時の心境、趣味との両立
- 空知総合振興局保健環境部保健行政室健康推進課
健康推進課長【保健師】
立花 八寿子（長男中2） …… 11
専門職としての経験、昇任時の心境、派遣経験
- 十勝総合振興局保健環境部
環境生活課主査【衛生工学】
中島 知子（長女小5、次女小2） …… 15
専門職としての経験、育休からの復職時の状況、育児短時間勤務の活用
- 渡島総合振興局保健環境部社会福祉課
保護第三係長【行政】
石浦 敏恵（長男23歳、次男20歳） …… 19
福祉分野で活躍、単身赴任、昇任時の状況
- 環境生活部環境局循環型社会推進課主査【行政】
原口 ゆみ子 …… 23
昇任時の心境、派遣経験、単身赴任
- 上川総合振興局産業振興部商工労働観光課
観光振興係長（食・観光戦略室）【行政】
榎波 純子 …… 27
昇任時の状況、派遣経験、上川食・観光戦略室
- 十勝総合振興局産業振興部主査
（とち食推進室）【行政】
上野 奈美 …… 31
昇任時の状況、趣味との両立、とち食推進室



経済部観光振興監

神 姿子
 (S54年採用・一般行政)

○主な経歴

昭和54年	4月	農地開発部耕地整備課
昭和56年	8月	農地開発部管理指導課
昭和56年		結婚
昭和58年	8月	長男出産
昭和60年	3月	次男出産
昭和62年	4月	総務部管財課
平成元年	4月	長男小学校入学
平成2年	4月	次男小学校入学
平成5年	4月	企画振興部企画室主査(昇任)
平成7年	6月	総務部文書課主査
平成7年	11月	総務部総括行政室主査
平成9年	6月	総合企画部地域振興室地域振興課主査
平成11年	5月	石狩支庁地域政策部地域政策課企画係長
平成13年	4月	総合企画部政策室主幹(昇任)
平成15年	6月	保健福祉部子ども未来づくり推進室主幹
平成17年	4月	後志支庁地域政策部長(昇任・単身赴任)
平成20年	4月	知事政策部知事室国際課長
平成21年	4月	総合政策部地域づくり支援局次長(昇任)
平成22年	4月	総合政策部地域づくり支援局長
平成24年	4月	石狩振興局長(昇任)
平成26年	4月	経済部観光振興監

○現在の仕事

国内外の多くの方々に全道各地を訪れていたため、北海道が誇る食や自然環境など本道の魅力を国内外へ発信したり、新たな観光資源の発掘など世界に通用する質の高い観光地づくりに取り組んでいます。

観光はすそ野の広い産業であり地域経済を活性化し、人口減少対策としても期待されていることから非常にやりがいを感じています。

Q 描いていたキャリアプラン

入庁した時、目に見える上司といえば課長でした。

課長とお話するのは恐れ多いことでしたが、将来は、あの課長のように責任のある立場になれたらいいなあと漠然とっていました。まさか部長職になるとは思っていませんでした。

入庁当時は、女性職員は庶務を担当するという空気があって、私は、出勤簿や休暇簿の整理やお茶出しなどを頑張っていました。

Q 仕事のモットー

どんな仕事でも自分なりの目標を持って楽しくすることがモットーです。それは今の仕事であっても、入庁時の庶務係であっても変わっていません。きっちりときれいな仕事をこなしたいという気持ちが強いです。

また、組織の一員として、上司・部下・同僚の役割を重視して働くということも大事にしてきました。

また、飲み会も多いので(笑)、若い頃から「毎日ノー残業デー」を目標に、効率の良い仕事を心がけてきました。



四季彩の丘は本当に綺麗なところです



北海道観光大使の伊吹吾郎さんと記念撮影

Q 昇任時の状況、心境、苦労

昨日の私と今日の私は何も変わっていないのに、昇任すると昨日までの主幹級の判断ではなく、課長級としての判断が求められるんですよね。

そこで、年齢の近い部下から「管理職なんだから自分で判断してください」と言われると、結構堪えます(苦笑)。

そのあたりに戸惑いや悩みがありました。ある時から、自分より一段上の上司の中から「理想の上司」を見つけて、その姿から管理職としての立ち振る舞いや気遣い、判断力などを学びました。

今でも判断のベースになっています。

Q 最も印象に残っている仕事

それぞれ印象深いですが、体力的に一番大変だったのは、平成7年の不正経理対応です。

「毎日ノー残業デー」の私が、連日朝まで仕事をしていました(笑)。

朝に着替えに家に帰って、すぐに職場に戻るというサイクルが半年くらい続きました。

徹夜続きだと、男性は眠たくなったら、職場で軽く横になれるけど、女性はそうはいかないのが大変でしたね(苦笑)。

その頃、子どもは中学生でしたけど、正直、母親任せでしたね……。

Q 仕事を続けていく上での苦勞など

苦勞は、やはり共働きだったの、働きながら家事と子育てを両立するのは大変でした。ずっとではないですけどね。

やりがいは、仕事を通じて市町村や道民の皆さんのお役に立てることです。いろいろな外部の方々と一緒に仕事をして、何らかの成果が得られると、共にうれしいですよ。

あと、経済的に自立していることですかね。夫婦遠慮なく対等にできますから。といっても普段の家計は夫に支えてもらっていますが、家を建てる時にポーンとお金を出すとかね(笑)。

Q 部下を育てる上で心がけていること

良いところを見てあげて、そこに光を当てて、伸ばして、いい仕事をしてもらおうと、その人の弱点も薄れてきて、信頼関係ができてくるかな。

部下を信頼して仕事を任せて、失敗は責めず、いろいろ経験して学んでもらうという上司でありたいと思っているけど、部下の人はどう見ているかな？

部下が私の出張の飛行機の手配を忘れて、結局、大揺れのフェリーに乗ることになって怒らなかったです(笑)。

※ホントです(人事課 古田)



後志赴任後、初めての来賓挨拶で緊張！



岩内町の夏祭りで地域の方々と懇親

Q 転勤について

子育て期間中は引っ越しを伴う異動については、配慮していただけるとありがたいですよ。

ただ、地方勤務は本当に良い経験です。地元の市町村や経済界の方々の生の声を聞くと、地域から本庁がどう見えているのか、道民から道庁がどう見えているのか、自分たちの政策が地域の方々に喜ばれているのか、使いにくいのが肌で実感でき、それが政策判断の大きな糧になると思います。

Q 出産時期について

仕事と育児の両立は、体力的にも負担が大きいです。

夜泣きがあるし、小さいうちは病気がちだし……。

できる限り、若いうちに、集中的に育児をした方が良いと思います。

兄弟の年齢が離れると、子育てを忘れてしまう(笑)。

できれば、役職に就く前に育児に手がからなくなっただ方が良いかなと思います。

おかげさまで、仲の良い兄弟です。

Q 育児休業について

私の時代は、育児休業制度がなかったの
で、産後8週間で復帰しました。

復帰して、すぐに仕事モードに戻ったので、
体調は問題ありませんでした。

正直、1年も空白があったら、スムーズ
に復帰できたかどうかわかりません。

私だったら、3年も休業すると、子どももか
わいいし、家から離れられなくなるかもしれな
いと思います。

何れにしても職場復帰するには、保育サー
ビスの充実など環境整備が大事ですね。

Q 女性の活躍について

私は女性の活躍促進は良いことだし、ど
んどん進めるべきだと思います。

そのためには、環境整備が必要で、まず
は、長時間労働している人が一生懸命仕
事をしているというような風潮・習慣はなく
すべきだと思います。

また、保育サービスの整備も必要です。

ただ、女性だからといって意図的に女性
登用を進めるのは、本人も職場も不幸にな
るので、様々な職務経験を積ませるといっ
た人材育成を進めることが必要です。

息子たちからは「働いてる母さん、格好良
いね」と言われてうれしいです。

雪トビアフェスティバル2007



倶知安町の雪祭りで支庁チームの雪像づくりを激励



今の職場の仲間とお花見

Q 女性であることで良かったことなど

私、頭の中は男性なんです(笑)。

まあ、女性で良かったことは、すぐに名前
を覚えてもらえることですね。男性だと怒ら
れてしまうことでも、大目に見られることも
ありますし。

一方で、女性が登用されると、男性よりも
求められるハードルが上がってしまう。評
価が厳し目になる気がします。

また、今はないですけども、若い頃は
大事な打合せで「なんだ女か」と軽んじられ
ることもありました。

あと、身だしなみに気を遣うことが負担で
すね(笑)。

Q 後輩女性職員へのアドバイス

あまりテンパって、仕事も家庭も頑張りす
ぎないことかな。

私はよく上司に「頑張りすぎるんじゃない、
自然体で」と言われてきました。

仕事も含め、いつも余裕を持ってスケ
ジュール管理などをしておけば、いざという
時に100%の力を発揮できると思いますし、
男女平等といっても、女性らしいしなやかさ
を大切にしてほしいです。

一人で仕事をしているわけではないので、
周囲や上司に甘えたり、委ねることも必要
だと思います。



上川総合振興局長

紺谷 ゆみ子
(S54採用・一般行政)

○主な経歴

昭和54年	10月	札幌医科大学
昭和57年	4月	開発調整部統計課
昭和61年	4月	開発調整部(計画)
昭和63年	5月	企画振興部交通対策課
平成 3年	6月	企画振興部地域振興室市町村課
平成 7年	6月	檜山支庁地方部振興課市町村係長(昇任)
平成 9年	6月	渡島支庁地域政策部振興課市町村係長
平成12年	4月	総務部財政課主査
平成14年	4月	経済部産業政策推進室主幹(昇任)
平成16年	4月	企画振興部交通企画室主幹
平成18年	4月	企画振興部総務課主幹
平成19年	6月	企画振興部地域主権局参事(昇任)
平成22年	4月	空知総合振興局副局長(昇任)
平成24年	4月	総合政策部地域行政局長
平成25年	4月	総合政策部地域づくり支援局長
平成26年	4月	上川総合振興局長(昇任)

○現在の仕事

今年の4月から上川総合振興局の局長として勤務しています。

管内は23市町村で構成されていて、面積はほぼ新潟県に匹敵する広さです。

地形は南北に細長く北・中・南とそれぞれ特色がありバラエティに富んだ地域です。

振興局は地域づくりの拠点であり、上川地域の活性化を目指した産業の振興、住民の皆さんの安全・安心を守るための防災、保健環境など、仕事は広範囲にわたりますが、地域の目線に立って現場主義をモットーに取り組んでいます。

Q 道職員になった理由、入庁後の印象

私が就職した頃は、大学4年卒の女性に対する企業の募集は殆どなくて、就職するとしたらいわゆる腰掛け的な職場が多かったという時代でした。

私は、自分自身が働いて得たお金で生活していきたいと思っていたので、女性が長く勤められる職場ということで公務員を志望しました。

どんな職場でも同じだと思いますが、学生時代と違って様々な年代の様々な立場の人たちがいて、その中で責任を持って仕事をしていくのは結構大変ですが、それもまた楽しいと思うようになりました。



上川総合振興局のクリスマスイベントにて

Q 最も印象に残っている仕事

私は札幌生まれの札幌育ち。

初めて札幌を離れたのは最初の昇任で檜山支庁の市町村係長になった平成7年のことです。

檜山は札幌に比べるといわゆる”田舎”ですが、都会では希薄になりがちな人のつながりが濃く、とても新鮮に感じました。

また、地域には自分の地元への誇りと愛着を持って頑張っている魅力的な人たちがたくさんいて、その想いにどう応えていくのか、私たちにどんなことができるのかは、その後の振興局勤務(渡島・空知・上川)においても共通のテーマとなっています。



帯広ばんえい競馬に協賛
(「地域を愛するゆみこ女王杯」)

Q 描いていたキャリアプラン

ずっと働き続けていきたい、働いてお給料を貰う以上は一生懸命やろうという気持ち以外には特にありませんでした。

当時は女性が係長になることもありませんでしたが、しばらくしてから女性登用が進められて女性職員も役付きになるという人事が出てきました。

自分もいつかそういうポジションになることもあるかもしれないと思うと、イメージトレーニングというか、日常の仕事への取り組み方も少し変わってきたのではないかと思います。

Q 昇任時の状況、心境、苦労

最初の昇任は、新天地の檜山支庁での市町村係長。

張り切るのと同時に緊張感もありました。

また、係長として年若い部下を何人も持つことになりました。一つのチームとしてどう仕事の成果を挙げていくかという責任もあります。さらには係員の生活やある意味人生にまでも深く関わるかもしれないという重みもあります。

でも部下を持つということは大変な反面、彼ら、彼女らが日々の仕事を通して育っていくのを見るという面もあり、とても楽しいことでもありますね。

Q 転勤について

異動で、住み慣れた場所からまったく知らない所へ転居するのは、正直エネルギーがいりますね。

今の仕事の残務整理、引き継ぎに加えて、引っ越しの準備から転居に伴う各種手続きなどなど。

特に役所関係の手続きは、殆ど平日のそれも日中でなければできないことが多く、仕事をしながらであれば大変です。

でもそれ以上に、新しい土地での新しい暮らしや出会いは、これまでの自分の人生にとって大きな糧になってきたと思っています。



朱鞠内湖でイトウ釣り



「陸別しばれフェス」にてしばれるう～

Q 仕事を続けていく上での苦勞など

若いうちは、自分で何とかしよう、何とかできるという気持ちがあって、時には自分を追い詰めてしまうこともありました。

責任を持ってやるのは大前提ですが、周囲のアドバイスに耳を傾ける、チームとして仕事をする、時には人に頼ることも必要かと思えます。

困難な仕事をやり遂げた時、様々な人とのつながりの中で自分たちの仕事が本当に感謝されていると思う時には、大きなやりがいを感じることができそうですが、それもみんな分ち合った方がより嬉しいですね。

Q 仕事と家庭、趣味の両立のコツ

どうしても仕事優先の生活になってしまいますが、ちょっとした時間でも定期的に家族には連絡するようにしています。

他愛のない会話の中でもお互いの様子がわかると安心できますね。

仕事を離れて趣味などを楽しむ時間はとても大切だと思いますが、なかなか時間が取れないこともあります。

それでも頑張っって時間を見つけて、友人と会ったり、どこかへ行ったり、美味しいものを食べたり飲んだり、精一杯上川での生活を楽しんでいるところです。



和寒にて愛車とともに

Q 女性であることでよかったことなど

これまでの仕事でも、女性の仕事、男性の仕事という区別はありませんでしたし、特に苦勞と感じたことはないと思います。

ただ女性の割合が少なかったので、比較的目立つということもあり、周囲の皆さんに早く覚えていただけるという利点はあったかなと思います。

あとよく「女性の感性で……」というオーダーがありますが、感性というのは性別も含めたそれぞれの個性によるものと思っているので、一括りに「女性の感性」と言われると、ちょっと戸惑うことがありますね。



朱鞠内湖にてタイタニックポーズ

Q 後輩女性職員へのアドバイス

「仕事断らない、転勤断らない、飲み会断らない」

特段の事情がない限りは、自分の殻にこもらないで思い切ってやってみる、飛び出してみる方が良いと思います。

広く経験を積むこと、様々な体験をすること、たくさんの人と知り合うことは、自分の世界を大きく広げてくれます。

ちなみに私が言うのもなんですが、酒量や睡眠時間はきちんとセルフコントロールすること。

仕事をしていく上で一番大切なのは健康な身体です。



浦河馬フェスタでカンパイ♪

Q 男性職員に一言

女性が本当に働き続けるためには、家族や職場の理解と協力がなければ難しいと思います。

相手の立場に立って考えれば、少しの思いやり、少しの工夫で働きやすい環境が整うこともあるのではないのでしょうか。

女性が働きやすい社会は、男性にとっても働きやすい社会、女性も男性も共に輝きましょう！



旭川「烈夏まつり」にて（右側です）

空知総合振興局保健環境部
保健行政室健康推進課
健康推進課長

立花 八寿子
(S60年採用・保健師)



○主な経歴

昭和60年	5月	釧路保健所普及課
昭和63年		結婚
平成5年	4月	当別保健所予防課
平成10年	5月	岩内保健所保健予防課
平成12年	11月	長男出産(生後5か月まで育休)
平成13年	5月	復職
平成14年	4月	保健福祉部地域保健課
平成17年	4月	石狩保健福祉事務所千歳地域保健部(千歳保健所)企画総務課主査(昇任)
平成19年	4月	長男小学校入学
平成20年	4月	石狩保健福祉事務所千歳地域保健部(千歳保健所)健康推進課主査
平成23年	4月	保健福祉部総務課主幹(美幌町派遣)(昇任・子どもと転勤)
平成25年	4月	空知総合振興局保健環境部保健行政室(岩見沢保健所)健康推進課長

○現在の仕事

岩見沢保健所の健康推進課長となって2年目となります。

健康推進課には、保健予防係、精神保健福祉係、健康支援係、健康増進係の4係があり、主な業務として、感染症に関する対策や精神保健福祉対策、虐待予防の取組、給食施設の調査と指導、健康増進計画、医療計画(5疾病)、歯科保健対策、リハビリテーション、精神や難病等の申請事務等があります。

特に精神保健では、市町村等の関係機関や住民の方からの相談が、毎日のように入り、支援が難しく緊急を要するケースも多いため、チームで即検討→支援ができる体制を大切にしています。

Q 道職員になった理由、入庁後の印象

北海道立衛生学院保健婦科在学中に、市町村か道立保健所かで迷いましたが、実習先である道立保健所保健師の活動や業務に取り組む姿勢に魅力を感じて、選択しました。

釧路保健所に入庁後は、先輩保健師に育ててもらったことに感謝しています。

Q 描いていたキャリアプラン

保健所保健師として、いろいろな地域の人との出会いを宝にしながら、退職まで仕事を続けていけたらいいなあと、漠然と考えていました。

また、キャリアを積み上げるにあたっては、道には、保健師の現任教育体制が、整備され始めていたので、これが大きな支えとなりました。



美幌町役場職員と（笑顔自慢写真コンテスト）

Q 最も印象に残っている仕事

人事交流で異動した美幌町役場の保健福祉グループで業務を行っていた時期に、健康増進計画（評価）策定を担当しました。

町の健康課題や解決策案を職員間で協議し、それらを住民の皆さんにわかりやすく伝え、検討していくプロセスの中で、今更ながら、住民の皆さんの持つ力に感動しながらの取組となりました。

野菜の摂取不足という課題解決に向けて、農協女性部と協議して、「和牛祭りで野菜を売りながら、健康づくりPR作戦」は、印象に残っています。

保健師の仕事は、みる・つなぐ・うごかすことだといわれています。

健康課題をとらえ（みる）、わかりやすく住民の皆さんや関係者に伝え（つなぐ）、住民の皆さんや関係者が主体的に考えて動く（うごかす）というプロセスです。

美幌町では、こうした体験を多くさせていただいた2年間でした。

Q 結婚時の仕事等の状況

結婚前後について、よくよく思い起こしてみると、結婚前は、帰宅後も気分転換を図ることが難しかったような気がします。結婚後は、家庭に帰ると生活もあり、気分転換ができるようになったような気がします。（はるか昔のため、記憶が曖昧です。）

Q 妊娠・出産時の仕事の状況

仕事面では、職場の上司、同僚の皆さんのフォローをたくさんいただきながら、38歳の高齢初産を何とか乗り切りました。

隣の保健所に同期保健師の友人がおり、同じ時期に出産を迎えたため、励まし合えたことも、精神的な支えとなりました。

Q 育休からの復職時の状況

保育所の空きがなかったため、入所しやすい時期を考え、年度初めの4月に復職し、地元保育所に入れて復職しました。



美幌町高齢者大学での健康教育

Q 育児中の状況や環境・心境の変化

子どもが、1歳5か月の時に本庁へ異動となり、異動前の保育所探しが大変でした。当時、認可保育所の空きがなかったため、職場と自宅に近い無認可保育所にお世話になりました。そこでは、希望日に夕食提供もあり、いろいろとサポートしていただきました。

小学校入学までは、喘息様気管支炎で、年に1~2回の入院もありましたが、両方の親の世話になりながら、綱渡りの中で、何とか乗り切りました。

Q 昇任時の状況、心境、苦勞

千歳保健所へ異動し、主査に昇任しました。

健康推進課の主査(子育て支援)として、保健師をまとめ、リーダーシップを発揮することに戸惑いもありました。

その頃、新型インフルエンザの対策が始まり、スタッフは何に困り、今後何が起こるのかを予測し、上司に報告・相談しながら対応する激動の毎日の中で、自分の役割を確認できていったような気がします。



美幌町の送別会にて

Q 派遣先市町村(美幌町)での思い出

美幌町民生部保健福祉グループ健康推進主幹となり、9人の保健師・栄養士・事務職の皆さんと町の健康推進事業に取り組まさせていただきました。特に、町議会や予算などは、上司や担当者、管理職の皆さんの力に助けていただきました。

異動によって、長男と母、私の美幌での3人での生活となり、息子にとっては、新たな友達や先生に出会えた貴重な期間になりました。また母は、見守りが必要な状況だったので、地元のボランティアさんに、とてもお世話になりました。

Q 転勤について

北海道は広いので、転勤は引っ越しも伴い大変なことではあります。

でも、町の職員の方と話す、管内のことはわかるが、管外のことは、あまりわからないと話されます。

優等生の発言となってしまいますが、転勤によって、その管内の強みを教えていただきながら、他管内間の町と町をつなぐ役割が道職員には求められているんだなあと、(あまり異動できていないのですが)家族との折り合いをつけながら、転勤をしなければと考えています。

Q 仕事を続けていく上での苦労など

健康推進課長の立場になって、職員から、様々な案件や相談がきた時に、方向性を検討し、上司に報告相談しながら動ける体制にあるので、現在は、精神的なストレスがあまり、ありません。

やりがいは、課の職員が頑張っている姿や、課題を解決して、成長している姿を見ることです。そういう姿を見ると、とてもうれしくなり、うれしさが顔に出てしまいます。

Q 仕事と家庭の両立のコツ

両立はできていません。

家族からは、まわりを巻き込み、振り回すと怒られています。

自分は、ダメな人間なので、その分家族が家事に協力してくれる中で、仕事と家庭がまわっていきました。

家族の協力に、感謝しています。



子どものハッピーバースディ♪



先輩保健師の送別会にて

Q 後輩女性職員へのアドバイス

この事例集を書くにあたって、若い頃は、結婚や出産により、質の高い仕事ができるだろうか、と真剣に悩んでいた自分がいたことを思い出しました。

仕事もそうですが、結婚、出産、育児、介護など、新たなことを行う前は、不安が先立ちますが、やると何とかなるという体験が、次の自分を強くたく（体ではありませんよ。）してくれていったと思います。

新たな体験に、臆することなくトライしていきましょうね。

しかしながら、まじめな方も多いので、ジャマイカ(じゃあ まあ いいか)の気持ちも忘れずに。

バランスをとっていきましょう。


Q 女性であることで良かったことなど

地域の健康教育や介護予防事業などでは、女性の参加率が高く、とてもお元気な方が多いですね。

健康寿命をみても、道内どこの市町村でも女性の方が高くなっています。

女性のコミュニケーション能力が、地域を明るく豊かにすると考えており、語り合う中で、元気になる女性で良かったと思います。

いずれにしても、女性と男性それぞれの持つ特性を生かし合いながら、家庭、職場、地域がまわることが、最も大事なんですね。



十勝総合振興局
保健環境部環境生活課
主査

中島 知子
(H5年採用・衛生工学)

○主な経歴

平成 5年	4月	十勝支庁地方部振興課
平成 9年	6月	十勝支庁地域政策部環境生活課
平成10年		結婚
平成14年	4月	環境生活部環境室自然環境課(単身赴任)
平成15年	4月	長女出産(1歳まで育休)
平成16年	4月	復職
平成18年	7月	次女出産(1歳8か月まで育休)
平成20年	4月	復職
平成20年	4月	十勝支庁地域振興部環境生活課
平成22年	4月	長女小学校入学
平成25年	4月	次女小学校入学
平成25年	9月	十勝総合振興局環境生活課主査(昇任)

○現在の仕事

北海道自然環境等保全条例に基づく特定の開発行為に関する業務(許認可や許可施設の立入検査など)を担当しています。

また、環境保全に関する普及啓発業務を担当しており、具体的には、「もっとエコなとかちづくり」を合い言葉に「みんなで環境を考え環境保全の取組を進める」事業(体験教室・バスツアー・パネル展・ガイアナイト等)や十勝総合振興局独自事業の「環境フロンティアとかち～再生可能エネルギー等普及促進事業」を担当しています。

Q 道職員になった理由、入庁後の印象

北海道内で環境に関わる仕事がしたいと思い受験しました。

技術職で入庁したため、予想していたような環境保全に関わる仕事(公害規制業務)ができました。

しかし、まだ当時は女性が作業服を着て、事業所などに出向くことが少なかったことから珍しがられた思い出があります。

Q 最も印象に残っている仕事

平成10年に十勝で環境保全に関わりのある住民団体・企業・行政が集まり、環境見本市のような「それいけエコロジー〜とかち環境フェスティバル」の開催を企画し、実施したことです。

当時の係長が私の思い立った企画に同意し、すべて任せてくれて、同僚も通常業務以外の仕事なのにサポートしてくれました。

この企画の成功により仕事をする楽しさを実感し、その後の仕事をする上でも大切なことを多く学びました。



とかち・市民「環境交流会」で環境実験教室の受付中



十勝エコロジーパークにてワカザリガニ(外来種)捕獲中

Q 描いていたキャリアプラン

北海道の豊かな自然環境を次世代まで引き継いでいきたいと思っていましたが、入庁当時は、結婚後、場合によっては退職するのかな、結婚しなければ退職まで働くのかなという程度に思っていました。

結婚後は家族の理解もあり、私が働くことに全面的な協力が得られたため、できる限り仕事を続け、仕事を通して社会貢献したいと思うようになりました。

Q 結婚時の仕事の状況など

結婚当時、廃棄物対策係で許認可業務を行っており、時間的にあまり余裕がありませんでしたが、仕事の時間と家庭の時間のメリハリをつけるよう努力しました。

Q 妊娠・出産時の仕事の状況

長女を出産した年は4月に転勤、8月に妊娠発覚、その後つわりで座っていることも苦しい状況が続き、所属していた係・課の方々には大変迷惑をかけました。

同時に様々な配慮をしていただき大変ありがたかったです。

また、待望の妊娠だったので何より妊娠継続に留意しました。

妊娠中、通勤緩和や通院のための制度などを活用し、おかげさまで無事出産することができました。

次女妊娠時は職場の協力や家族の協力なしには乗り切れなかったと思います。



旅行大好き！

Q 育休からの復職時の状況

長女出産後の復職した月は子どもの発熱などで半分程度しか出勤できませんでした。

育児休暇・子の看護休暇などの制度をフルに活用し、何とか乗り切りました。

長女の際は単身赴任中でしたが両親など家族が近郊にいたため、全面的に協力してもらい仕事を続けることができました。

次女出産後の復職時は夫の居住地近くに転勤させてもらえたため、2人で協力するとともに育児休業・部分休業も活用しました。

また、保育所の先生方には大変お世話になりました。子育て初心者の私たちにとって力強い味方でした。

Q 育児短時間勤務の活用法

育児休暇(長女・次女)、育児休業(次女)、部分休業(次女年少まで)をそれぞれ活用しました。

特に2人目の時は、子どもと過ごせる時間は今しかないと思ったので部分休業まで活用しました。

勤務時間は短いですが、計画的に、集中して業務をすることで任された仕事はこなすことができたと思います。

また、同僚との情報交換を密にすることが円滑な業務を進めるために重要なことだと思います。

Q 育児中の状況や環境・心境の変化

子どもがいつ発熱し、保育所から呼び出されるかわからないので、今やれる仕事は後回しにせずやれる時に計画的にやるようにしました。

また、外勤などの際は時間の制約もありますが同僚の理解を得ながら行いました。

仕事中は仕事に専念しますが、家に帰ってからは子どもとの時間をとれるよう、ご飯以外の家事は適当にするなど手を抜けるところは抜いて、精神的・肉体的にきつくないようにしています。

Q 仕事と家庭の両立のコツ

我慢する時は我慢する。

でも夢や希望は持ち続ける。

その時一番大切なものを優先する。

たまに息抜きするのは大切。

自分に関わるすべての人に感謝の気持ちを忘れずに、そして「ありがとう」を言葉に出して感謝の気持ちを表す習慣をつける。

お金で解決できることには惜しまず使う(食器洗い機など)。

Q 昇任時の状況、心境、苦勞

同じ課の中での昇任だったため、ほとんど苦勞はしませんでした。

ただ、後任がつかなかったため、元の係の同僚に負担がかかってしまったことに申し訳なかったという思いはあります。

Q 転勤について

私に関しては、結婚・出産などで大変配慮してもらっていると思います。

北海道は広いので転勤はつきものですが、子どもと一緒に転居を無条件でというのは、なかなか難しいところがあると思います。個々人のタイミングに合わせた異動を考慮してもらえればと思います。



自然環境等保全条例に基づく現地検査

Q 仕事を続けていく上での苦勞など

大学卒業時に担当教授から「まず5年間一生懸命頑張りなさい」と言われ働いてみたところ、その後も仕事に意欲を持って取り組めるようになっていました。

数年で担当業務が変わり、日々勉強することがたくさんありますがどれも北海道の環境を保全することにつながっていると思い、頑張っています。

現在は、イベント等の参加者からいただく楽しかった、また参加したい等の言葉を励みに、楽しくわかりやすい普及啓発をしたいと思っています。



ガイアナイトで十勝総合振興局長とカンパニー♪
(十勝毎日新聞取材中)

Q 後輩女性職員へのアドバイス

人にはいろいろな価値観があります。自分の価値観を持って力強く人生を歩んでください。

職場は人と人とのつながりが大切です。

常に感謝の気持ちを持って同僚・来庁者に接し気持ちよく仕事をしていきたいですね。

昨年受講した簡単ワンペーパー研修のグループで、「十勝総合振興局ディズニーランド化計画」を検討しました。来庁された皆さんに笑顔で帰っていただけるような職場にしたいという計画です。せっかく立てた計画なので実行するよう心がけています。皆さんも日々笑顔を忘れずに(^^)。

Q 男性職員へ一言

私は、女性ということで、大事に扱ってもらっていると思います。

いつも優しく見守ってくれてありがとうございます。

男女平等とはいえ、やはり得意・不得意分野はそれぞれあると思いますので、協力し合える環境を保持してもらえるとありがたいです。

これからもよろしくお願ひします。



渡島総合振興局
保健環境部社会福祉課
保護第三係長

石浦 敏恵
(H2年採用・一般行政)

○主な経歴

- 平成 2年 5月 網走支庁地方部社会福祉課
- 平成 3年 結婚
- 平成 3年10月 長男出産
- 平成 6年 9月 次男出産
- 平成 9年 4月 夫が単身赴任(～6月)
- 平成 9年 7月 旭川肢体不自由児総合療育センター庶務課
- 平成10年 4月 長男小学校入学
- 平成13年 4月 上川支庁総務部社会福祉課
- 平成13年 4月 次男小学校入学
- 平成15年 6月 夫が単身赴任(～平成24年3月)
- 平成21年 4月 上川保健福祉事務所保健福祉部(上川保健所)子ども・保健推進課
- 平成25年 4月 上川総合振興局保健行政室(上川保健所)企画総務課
- 平成26年 4月 渡島総合振興局保健環境部社会福祉課保護第三係長(昇任・単身赴任)

○現在の仕事

生活保護法を担当しており、ケースワーカーの査察指導をしています。

Q 道職員になった理由、入庁後の印象

短大時代に、一般教養(女性学)のゼミがあり、興味があったため2年間在籍し、当時はバブル景気で短大卒女子でも求人是一人20社以上ある時代で大部分の同期は、航空会社やマスコミ、金融機関、証券会社に就職しました。

男女雇用機会均等法が施行されていましたが、民間は給与や仕事内容にもまだまだ男女差がある時代で、ゼミの先生の助言で、給与に男女差がなく、福利厚生面も充実しているとのことで、民間は受験せず、公務員を受験することにしました。

Q 最も印象に残っている仕事

網走支庁での最後の2年間の係は、高齢者や障害者関係の補助金や関係事業、団体事務、介護保険法が施行される前までの事務を担当し、子どもが就学前でしたが、出張や残業が多い職場でした。

両親が近くにいないことから、夫に子どもたちの面倒をみてもらうことも多々ありましたが、当時の上司が幼少の子がいても関係なく仕事を任せてくれ、また同僚も大変協力的でその時の経験が後々の仕事にも大変生かされており印象に残っています。



網走夏まつり流水踊りに参加



3振興局ソフトボール大会懇親会

Q 描いていたキャリアプラン

27歳くらいで結婚して、子どもも2人くらい産んで、夫婦共働きで頑張っていこうと思ってました。

道内いろいろな所に住みたいと思って、道職員になったこともあり、条件が許せば、異動もしようと思ってました。

Q 妊娠・出産時の仕事の状況

採用翌年に結婚、出産したため、上司や同僚に申し訳ないと思いましたが、出産しても、変わりなく仕事ができるように自分や子どもの健康管理に留意しました。

長男を出産した時は、事務職はまだ育児休業が取得できず、認可保育所も3歳からしか入所できなかったため、市役所の保健師さんに相談し、託児所に預けました。

次男の出産後は、1歳になるまで育児休業の取得は可能でしたが、母子ともに元気だったため、取得せず産休後から託児所にお世話になりました。

Q 育児中の状況や環境・心境の変化

自分自身、子どもがいようがいまいが、変わりなく仕事をしようと思っていたので、自分も子ども健康状態に留意した生活を心がけました。

夫が単身赴任中でも残業しなければならない時は、一旦、自宅へ戻って食事を作り、子どもたちに食べさせてからまた職場へ戻り、土日も時間をみつけて仕事に行ったりと工夫しました。

子どもが風呂を沸かしてくれたり、布団を敷いてくれたり、除雪をしてくれたりと助けられました。

Q 昇任時の状況、心境、苦労

夫が一時(次男小3～高2)単身赴任していたため、次男が高校を卒業すれば異動しようと思っていました。

長い間、同じ勤務地で勤務させてもらったので、特に勤務地希望はしていませんでしたが、一番勤務したい道南(子ども達が東北の大学に在学中のため)で、比較的勤務経験の長い仕事の係長でありましたので、ありがたかったです。

8月に係員が退職し、勤務経験が少ない職員にも負担を強いることとなりましたが、係員に恵まれ、感謝してます。



幼少の頃の子どもたちと



時々子ども達の面倒をみてくれた祖母と沖縄旅行

Q 転職について

網走に勤務していた時に、夫が異動になり、一時母子(5歳と2歳)のみとなりましたが、3ヶ月後に夫と同じ勤務地に異動でき、当時の上司にはとても感謝しています。

勤務地の保育サービスの充実度にもよりますが、子どもが小学生までは、夫婦で同じ勤務地か、通勤可能な地域での異動に配慮してもらえればと思います。

Q 仕事を続けていく上での苦労など

家事、育児をしながら仕事を続けていくことは大変ですが、自分で決めたことなので、いろいろ考えながら何とかこなしてきたように思います。

仕事のやりがいは、難しい案件をこなした時や上司、同僚、部下、関係者に感謝された時です。

Q 仕事と家庭の両立のコツ

仕事や家事を抱え込まないで、困った時は上司、同僚、家族に協力してもらうのが何よりです。

私は、仕事、家事、育児は最低限できればいいと思っており、学生時代から趣味のロックコンサートに行ったり、家族旅行、スキージャンプ観戦、よさこい、アロマテラピー、エアロビ、茶道、登山等興味関心のあることは、時間を作り楽しんできました。趣味の充実こそが元気の源です。



旭川療育センター登山愛好家たちと

Q 女性であることで良かったことなど

特にありません。女性を意識したことはありませんが、相談業務に従事し、女性の方が相談しやすいと、相談者から言われたことはあります。



ヨサコイソーラン祭りに参加

Q 後輩女性職員へのアドバイス

漠然とでもいいと思うので、自分のライフプランを考え、仕事に左右されず、結婚、出産を乗り切ってほしいです。

女性が出産できる時期は限定されています。高齢になるとリスクも高まります。

中堅になると、仕事のやりがいがあり、出産を考えると産むタイミングを逃してしまうかもしれないので、子どもがほしいと思ったら、仕事のことはあまり考えない方がいいのかもしれませんが。

何とかあります。

Q 男性職員に一言

職場内で、出産を予定している女性職員がいたら、特別扱いはせず、いたわりの気持ちで接してください。

出産するのは、女性ですが、子育ては夫婦で行うものなので、子育て中の男性職員は、家庭に目を向け、育児を妻に任せるのではなく、定時に帰宅できるよう努力してください。

男性職員も子どもの通院付き添いや、保育所、幼稚園、学校の行事に積極的に参加してください。

環境生活部環境局
循環型社会推進課主査

原口 ゆみ子
(S63年採用・一般行政)



○主な経歴

昭和63年	4月	胆振支庁税務部徴収課
平成4年	4月	胆振支庁税務部課税課
平成9年		結婚
平成9年	7月	胆振支庁地域政策部環境生活課
平成16年	5月	環境生活部環境室循環型社会推進課(単身赴任～平成19年6月)
平成21年	4月	環境生活部環境局環境政策課(夫が単身赴任～平成26年3月)
平成22年	4月	胆振総合振興局地域政策部総務課主査(昇任・単身赴任・壮警町派遣)
平成24年	4月	胆振総合振興局地域政策部地域政策課主査
平成26年	4月	環境生活部環境局循環型社会推進課主査

○現在の仕事

今年度は、北海道らしい循環型社会を目指すための「北海道循環型社会形成推進基本計画」と「北海道廃棄物処理計画」の策定を担当しています。

タイトなスケジュールに追われていますが、向こう5年間の施策のベースとなる重みを感じながら、「北海道らしさ」を打ち出せるように、無い知恵を絞っています。

Q 道職員になった理由、入庁後の印象

大学進学を断念し、高校卒業後すぐに入庁しました。

アルバイト経験すらない中、初めての担当が道税の窓口で、生々しいやりとりや、道職員を見る目の厳しさに、最前線の業務の大変さを感じました。

最初の職場に幅広い世代の女性の先輩がいたため、道庁は、女性でも定年まで働ける組織であることを実感できました。



「くるりん」と「ぐりんちゃん」をよく

Q 描いていたキャリアプラン

入庁当初は、キャリアプランという発想自体ありませんでした。

道職員同士で結婚し、長く仕事を続けようと考え始めた頃から、「3年後・5年後に、どこで何をしていることが、自分にとって嬉しいのか」をイメージしてみるようになり、「幅広い業務を経験したい」「全道的な立場で仕事してみたい」という希望を持つようになりました。

Q 最も印象に残っている仕事

壮警町派遣中の「2011 第2回日本ジオパーク全国大会」です。4日間で全国から2,000人の参加者を得られ、地域内外へのジオパークの発信と定着に、微力ながら貢献できたと思います。

1年がかりの準備期間中、心身ともに消耗し、運営にも反省点が多いのですが、信頼しきったメンバーと一緒に、高揚感を感じながら仕事を進めたことや、得られた達成感、深く心に残っています。



ハノイにてジオパークの国際会議に参加

Q 結婚時の仕事の状況など

結婚を機に、当時新設された環境生活課に異動になり、新しい仕事を覚えることと、生活を組み立てることが一度に重なり、ペースを作るまでは大変でした。

Q 昇任時の状況、心境、苦勞

2度目の単身赴任、知人もいない町への派遣、業務となる「ジオパークの推進」のイメージも持てない中、なかなか厳しいなあと思いましたが、国内でも先例のない仕事にチャレンジする魅力が大きく、お話を受けました。

上司と3人の同僚・部下の中で全体のコーディネイトを担い、試行錯誤しながら、それぞれの得意分野を活かした業務分担と、進んで協力し合えるような気持ちづくりを心がけました。

Q 派遣先市町村(壮警町)での思い出

仕事では、各首長や火山・縄文の専門家、観光事業者の方たちとの調整、国際会議や道外プロモーションの参加、ガイドブックの出版、選挙事務など、それまで経験することがなかった業務に携わり、経験値が上がりました。

プライベートでは、宅飲み会、BBQ、山歩きを満喫。当時の仲間とは、今も交流が続いています。そうのみのり(壮警町こだわり米)、ジオアイスなど地元のおいしい食べ物と、日帰り温泉巡り、洞爺湖の景色でパワーチャージしていました。



昭和新山にて



「洞爺湖有珠山ジオパーク」のイベントにて

Q 転勤について

転勤、特に単身赴任は、体力的にも経済的にも大変なことを実感していますが、所属や立場が変わることで、新たな人とのつながりや視点を持つことができ、得るものは大きいと感じます。

本庁では全国の中での道の役割、振興局では地元自治体や他部局の職員との交流、町ではダイレクトな地域づくりと道庁を客観的に眺めたことなど、それぞれの面白みを味わってきました。

Q 仕事を続けていく上での苦勞など

新しいものを手がけることにやりがいを感じる事が多く、関わった事業が今でも継続していると、報われたと感じます。

また、仕事を通じて、友人・知人を得られることや、個人では行けない場所に行けることが、大きな喜びになっています。

年々、体力の低下を感じるので、業務をこなすペース配分に苦勞しています。

Q 仕事と家庭の両立のコツ

夫婦と一緒に過ごす時間と自分だけの時間を、バランスよく持てるように心がけています。

単身赴任期間が長かったこともあり、一緒に暮らしている間は、なるべく家でご飯を食べたり、共通の趣味である落語鑑賞や温泉などに出かけるようにしていますが、それぞれが好きなことをするのも、同じように大事にしています。

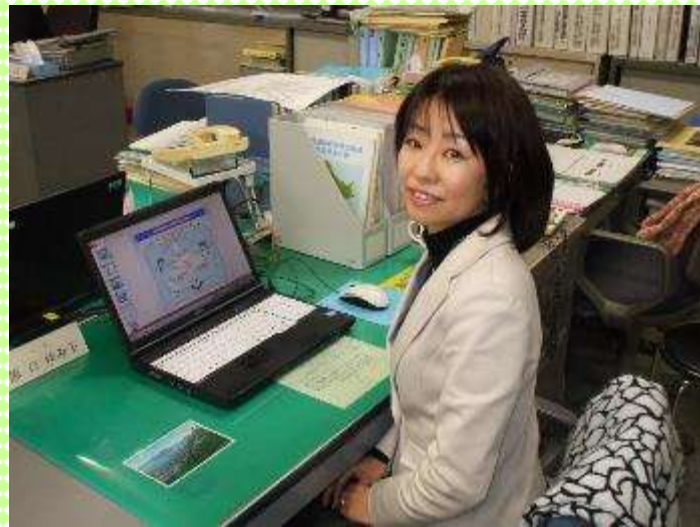
Q 女性であることで良かったことなど

女性であるというだけで、覚えてもらえたり出入りを許される場合があり、正直それでいいのかなとは思いますが、メリットだと感じます。

一方で、災害対応の業務では、先方の受入体制との兼ね合いなどから、適わない場合があり、もどかしさを感じたことがあります。



胆振時代の同僚とパチリ



今の職場です

Q 後輩女性職員へのアドバイス

自分自身を振り返ってみると、今いるところで、与えられた仕事に丁寧に取り組むことや、自分がしてみたいことを口にするのが、次につながると思います。

また、私には常に、「ああいう風になりたいな」と憧れる女性の先輩職員がいるので、そういう人を見つけて、お手本にさせてもらうのも良いと思います。

Q 男性職員に一言

世代にもよると思いますが、女性を使うこと・使われることに対し、構えないでもらえる嬉しいです。

また、男性も育児休暇取得をためわず、「イクメン」「イクボス」が当たり前である組織になればいいなと思います。

HOKKAIDO GARDEN SHOW 2015 DAISETSU

北海道ガーデンショー 2015大雪
2015.5.30～10.4



上川総合振興局
産業振興部商工労働観光課
観光振興係長
(食・観光戦略室)

榎波 純子
(H6年採用・一般行政)



○主な経歴

平成 6年 5月	釧路支庁地方部社会福祉課
平成 9年 7月	釧路支庁経済部商工労働観光課
平成12年 4月	総務部知事室秘書課
平成14年 4月	経済部人材育成課
平成16年 3月	総務部総務課(京王プラザホテル札幌派遣)
平成17年 4月	経済部観光のくにづくり推進室
平成19年 6月	知事政策部北海道サミット推進局
平成20年 8月	経済部商工局商業経済交流課
平成22年 4月	経済部総務課
平成24年 4月	上川総合振興局産業振興部商工労働観光課観光振興係長(昇任)

○現在の仕事

上川総合振興局で、観光振興の仕事をしています。主に市町村や観光協会への事業支援や、地域資源を活用した観光素材の開発、情報発信などに取り組んでいます。

上の写真のポスターは、来年、上川町と旭川市で開催される「北海道ガーデンショー2015大雪」のもので、私たちも情報発信のお手伝いをしています。

Q 道職員になった理由、入庁後の印象

北海道全体をフィールドに様々な分野の仕事ができるのではないかと漠然としたイメージがあり志望しました。

実際は、想像以上に仕事の内容が多岐に渡っていて驚きました。

生活保護のケースワーカーから始まり、観光、食、サミット、秘書・書記、U・Iターンの人材誘致などの仕事を体験しました。

新しい部署に異動する度に転職しているような感じです。

Q 最も印象に残っている仕事

北海道洞爺湖サミットです。

各国の政府首脳を招いた歓迎レセプション、海外メディア向けの情報発信などの事業に携わりました。これまでの経験を活かして事業に取り組もうとしましたが、自分の力量が及ばずたくさんの人に迷惑をかけてしまい、自己嫌悪に陥る毎日でした。それでも、一緒に仕事をしてくれた職員や民間、札幌市から派遣された方々に助けられ、最後までやり遂げることができました。その時の経験は仕事をする上での糧となっており、また、今でも当時の仲間との交流は続いていて一生の宝物となっています。



昇任する際の経済部総務課での送別会です



北海道洞爺湖サミット推進局の解散式

Q 描いていたキャリアプラン

私の場合は、特に思い描いていたキャリアプランはなく、目の前の仕事にただ一生懸命に取り組むことを大切にしてきました。

そうした中で、思いがけず昇任することになり、戸惑いとプレッシャーを感じました。

目先の仕事を頑張ることはもちろんですが、長期的な視点に立ってキャリアプランを考えることは、長く仕事を続ける上では重要だと思います。

Q 昇任時の状況、心境、苦勞

転勤で自分の生活も仕事もゼロからスタートし、その上で昇任することは想像以上に大変で、痛切に自分のダメさを思い知りました。

でも、相談できる同僚がいたことや、支えてくれる優しい部下に恵まれたおかげで、何とか今でも仕事をさせていただいています。

「その立場になって初めてわかることがある」と身にしみたことで、上の立場の人が背負っているもの、考えていることに想像力を働かせる意識が高まったことは、貴重な学びだったと感じています。

Q 派遣中(京王プラザホテル)の思い出

企業派遣研修で、京王プラザホテル札幌に一年間お世話になり、宿泊、レストランサービスや宴会セールスの仕事を体験しました。

特に「コスト」や「到達目標」についての意識は非常に高く、今までの自分には欠けていた感覚で、民間経験をしなければ実感できなかったことだと思います。

それから、ホテルマンはサービス精神が旺盛で面白い方が多いので、研修中はとても楽しい時間を過ごしました。

Q 転職について

最初は、転職に特に不安はなく、地域での仕事を楽しみにしていました。

現実には、新しい生活と仕事に慣れるのには一年位かかりましたが、慣れるにしたがって生活にも余裕が生まれ、趣味であるレストラン巡りにいそしむ日々となりました。

また、この地域に暮らしたことで、仕事や趣味を通じて出会えた大切な人がたくさんいて、自分の財産となっています。



今の同僚・部下たちがサプライズ誕生日会を！



サイクリングツアーで富良野、上富良野を疾走

Q 仕事を続けていく上での苦労など

難しい仕事や、うまくいかないことにぶつかって、行き詰まること、逃げ出したくなることは何度もありましたが、その度に周りの人たちに助けられてきました。

「今できないこと」、「今うまくいかないこと」も、続けていれば、きっといつかできるようになる。大事なものは、成長すること。そう思って仕事を続けています。

自分が助けられてきたように、今度は誰かの役に立つこと。それが今の目標です。

Q 女性であることで良かったことなど

働く女性が増えたことで、男性、女性ということも個人のキャラクターの一部として受け止められるようになってきていると感じます。

自分のキャラクターを受け入れてもらえることは嬉しいですね。

Q 後輩女性職員へのアドバイス

自分の仕事にしっかりと向き合うことは大事ですが、行き詰まった時には、少し視野を広げて、周囲やその仕事の先にあることに目を向けてみると、肩の力が抜けるかもしれません。

職場外の人、特に民間企業で働く友人や知人と話をすると、自分がいかに狭い視野で物事を見ていたかに気付かされることが多々あります。職場外の人とつながりを持つことは、外からの目線で仕事を見直す機会にもなるので、大切にしてほしいと思います。

Q 男性職員へ一言

価値観も、置かれている状況も一人として同じ人はいませんので、男性でも女性でも、共に働く人への思いやりを持って、お互いに助け合えるような関係性を大切にしたいですね。



ふらの観光アカデミーに参加しました



下川町の森でスノーシュー体験

☆ 上川食・観光戦略室について ☆

上川総合振興局の観光は、北部、中部、南部の3つのエリアにそれぞれの特徴があります。

南部の「富良野・美瑛エリア」は、国内外から多くの観光客が訪れる有名観光地で、国の観光圏整備法による「ブランド観光地域」形成に向けて取組を行っています。取組のレベルが非常に高く、明確なビジョンと戦略、そして実行力が伴う地域連携のお手本です。上の写真は、観光リーダー育成のために開催された「ふらの観光アカデミー」の修了式。係員とともに受講してきました。

中部では、現在、旭川市を中心とした1市7町で、観光圏整備計画の策定に取り組んでおり、それぞれの町が強みを生かした連携を検討中です。私たちもワーキングに参加しています。

北部は、天塩川流域市町村の連携が進んでいるほか、新たな旅行商品づくりや教育旅行の受入れに取り組んでおり、私たちも一緒にアイデアを練ったり、旅行会社の招へい事業やプロモーションを行っています。

地域が持続し、そこに根付く人たちの幸せをつなぐための手段として「観光」をどう活かすか。

その仕組みを考えるためには、地域の取組と課題を知り、知識と専門性を身に付ける必要があります。そして、まちづくりに貢献するためには、地域のリーダー、プレイヤーたちといかに協働できるかが最も重要だと思っています。これからも地域の皆さんと仲良く、そして少しでも役に立てるよう努力していきたいと思っています。



十勝総合振興局
産業振興部主査
(とち食推進室)

上野 奈美
(H5年採用・一般行政)

○主な経歴

平成 5年 7月	十勝支庁農業振興部耕地課
平成 6年 4月	十勝支庁農業振興部管理課
平成 9年 4月	十勝支庁総務部社会福祉課
平成16年 4月	総務部人事課
平成21年 4月	総務部人事局学事課
平成25年 4月	十勝総合振興局産業振興部主査(昇任)

○現在の仕事

十勝の農畜水産物や加工品等の販売力を強化しようと首都圏や関西圏などへの販路拡大やシンガポール等海外市場への販路拡大に向けた事業の実施に取り組んでいます。

主な取組内容は、首都圏等から講師を招き、十勝産品の販路拡大に向けたセミナーの開催、食の商談会や展示会に出展する事業者への支援事業、道央圏や首都圏等の飲食店に協力をいただき、十勝産食材を使用した料理を提供する十勝フェアの開催などを行っています。

Q 道職員になった理由、入庁後の印象

高校3年生の時の進路相談で、担当の女性教諭から、これからの時代は、女性でも長く働き続けられる仕事を選んだ方が良く、その環境が整っているのが公務員というお話があったので、自分でも考え、結婚してからも働き続けたい、利益追求の仕事よりも公共性、公平性の仕事の方が性格に合っていると思い、試験を受け道職員になりました。

入庁してみて、女性が多く働いており、出産後も仕事と家庭を両立させている職員が何人もいたので、自分も頑張っていこうと思えました。

Q 最も印象に残っている仕事

悩んだり苦勞しながらやり遂げた仕事やグループみんなで毎晩残業をして乗り切った仕事など、印象に残る仕事は数多くありますが、一番印象深いのが、採用になって7、8年が経った頃に、決定書の起案や通知文書の作成がなっていないと一から教わり、これまで知らずに仕事をしていたことが恥ずかしく、悔しい思いをしたことです。

また同じ頃に自分でどう仕事を進めていくか、やり方を考え提案するということを学び、初めて悩んだり苦しい思いもしました。

その経験が私の土台となっています。

当時、厳しく指導いただいた上司にはとても感謝しています。



今の職場です



十勝の社会福祉課時代です

Q 描いていたキャリアプラン

事務職は、各種分野があって業務内容も様々あるので、プランがなかなか描けませんでした。いろいろな仕事に携わって経験していく中で、強く興味を持ち、追求したいと思う仕事が見つかった時に、その仕事に専門性を持って取り組めたらいいなと思っています。

Q 昇任時の状況、心境、苦勞

主査に昇任し、十勝総合振興局に異動することとなり、「産業振興部とかち食推進室」に配属となりました。

新しい分野の仕事で不安はありましたが、自分が生まれ育った地域の食産業の活性に関わる仕事で、嬉しさと、少しでも役に立ちたいという気持ちで臨みました。

実際、仕事を始めてみると、これまで携わってきた仕事と違い、一から企画をして仕事を作り出す作業にとっても苦戦し、力不足を痛感しましたが、この仕事の経験を今後に繋げるため、自分にできることを考え、取り組んでみようという前向きな気持ちで頑張っています。

Q 転勤について

北海道職員は転勤がつきものですので、自分が健康であるうちは、転勤をしていきたいと思っています。

知らない土地で生活する不安はありますが、職場の雰囲気、人間関係が良好であれば、不安は軽くなり、仕事も頑張ることができます。

そのためには、自分からその職場の環境に馴染もうとする気持ちも大事だと思いますので、周りとのコミュニケーションを大切にすることを心がけています。

Q 仕事を続けていく上での苦労など

事務職の仕事は、いろいろな分野の業務内容がある中で、数年で部署が変わるので、新しい仕事を担当する度に、悩み苦労しますが、勉強しながら業務を積み重ねていくことで、自信を持って対応できるようになり、やり遂げた時の達成感や充実感を得た時は、とてもやりがいを感じます。

私の場合、これまで農業土木、福祉、職員の給与、私立学校、食産業と携わりましたが、仕事を通して見る新しい世界に興味を沸かし、新鮮な気持ちで仕事に取り組むことができています。視野が大きく広がり、良い経験ができています。



十勝のバスケットボールチームで優勝！



甥っ子とのお鍋で息抜き

Q 仕事と趣味の両立のコツ

20代は、チームに所属してバスケットボールをしたり、書道を習ったりしていましたが、30歳の時に転勤を機にやめました。

その後、趣味とまで言えるものはありませんが、息抜きに、職場や気の合う仲間と飲みに行ったり、友人との食事や旅行、家では好きなテレビを見てゆっくり過ごすなどしてうまく気分転換しています。

今、地元で過ごせる間は、小学生の甥っ子と過ごす時間も大事にしています。

Q 女性であることで良かったことなど

これまでを振り返って、女性であることでやりにくかったこと、困ったことは、特になかったように思います。

配属になった職場環境や一緒に仕事をさせていただいた上司や同僚に恵まれ、女性であることで温かい配慮をいただいた部分があったおかげで頑張ってくれたと思っています。

Q 後輩女性職員へのアドバイス

職場の皆さんとのコミュニケーションを大事にしてほしいと思います。

与えられる仕事が大きくなってくると、自分でできるか不安な気持ちが大きくなり自信がなくなったりもすると思いますが、自分にできる限り必死に頑張ることで、それを見ていてくれる周りもサポートしてくれるはずですよ。

今は、女性もいろいろな仕事にチャレンジできるので、一緒に頑張りましょう。

Q 男性職員へ一言

これまで配属になった職場環境や一緒に仕事をさせていただいた上司や同僚に恵まれ、女性であることで温かい配慮をいただいた部分があったおかげで頑張ってきたと思っています。

とても感謝しています。



シンガポール人観光客への十勝産品試食会



販路拡大を目指す企業への訪問



とがち豚丼振興局をよろしく！

☆ とがち食推進室について ☆

現在取り組んでいる主な業務は、十勝産品のブランド化を図り販路を拡大するため、関係団体や金融機関等と連携して、首都圏等からバイヤーや飲食店のシェフなどを招へいた生産現場の視察や商談相談会の開催、販路拡大に取り組む企業訪問などを行っています。

また、十勝は海外市場への販路拡大にも積極的で、とがち食推進室では、東南アジア(主にシンガポール)を中心に事業を展開しています。独自事業では、シンガポール人観光客に十勝産品を試食いただき嗜好を調査する試食会を実施しました。



道職員活躍事例集（女性編②）

平成27年1月
北海道

【ご意見などがありましたらこちらまで】

北海道総務部人事局人事課人事グループ

電話：011-204-5078（直通）

F A X：011-221-6399

電子メール：somu.jinji10@pref.hokkaido.lg.jp